人と活動のつながりづくりを応援する

# にしとも広場

2023
21号

## 心で動く、地域の活動
### ～顔の見える心地よいつながり～

にしく市民活動支援センター
にしとも広場

左から：松本センター長、加世田職員、山本珠代さん、樋野大禄さん、橘高禎利さん、鹿島崇宏さん、宮本晃三さん、オンライン：石黒芳樹さん

# 西区地域づくり大学校　卒業生座談会

西区地域づくり大学校（以下、地域大）は、今年で12年目になります。これまで143名の方が卒業して、西区内に様々な活動が生まれました。この度はあらためて、地域大の卒業生の方々にお集まりいただき、地域大を通した自身の心やつながりの変化、これからの地域での活動についてお話を伺いました。

## 地域大に参加したきっかけと、現在の活動について

**山本（7期生）**：都内の企業に長年勤め、地域で何か活動したいと考えていた時に、地域大があることを知り、参加しました。

卒業後は、にしとも広場や地区センターなどで薬膳茶とヨガの講座を開催していましたが、コロナ禍で活動を制限せざるを得なくなりました。

コロナも落ち着いて再開を望む声も多くなってきたので、活動を再開したいと考え、先日、西区街の名人・達人に登録しました。

山本珠代さん

**鹿島（9期生）**：私も企業に勤めていますが、仕事で体調を崩したこともあり、考え方を変えるために、職場と家庭とは別の第三の居場所を作りたいと思って参加しました。

地域大では留学生との交流をテーマに、オンライン対話会や西区のガイド団体とコラボしたイベントを開催しました。

昨年度からは「人生すごろく　金の糸」という、自分らしさを見つける活動を、同期生と一緒に企画・開催しています。

**橘高（9期生）**：自治会の役員をしており、コロナ禍で自治会の活動が止まってしまい、何かできることがないかと思い、参加しました。

現在は、中区にある横浜コミュニティデザイン・ラボというNPOで、ローカルグッドサポーターとして活動しています。

コロナも明けて、自治会活動を再開しようとしていますが、3年間のブランクでこれまでのように人が集まらず、外部の活動団体の力を借りることになりました。これを転機として、子どもや若者が参加できる自治会活動にしたいと考えています。

**樋野（9期生）：**平沼にある障がい者の作業所に20年ほど勤めており、地域の中で、障がい者理解の啓発や、事業所の横のつながりをつくる仕事をしています。経験を重ねる中で、仕事を通して地域を語ることに違和感を感じるようになり、一市民のボランティアとして地域に関わりたいと考え、地域大に参加しました。

地域の中には障害者手帳を持っていなくても、生きづらさを感じている人がたくさんいるので、私は引きこもりの方の活躍の場づくりをテーマにしました。

**石黒（10期生）：**勤め先が西区ということで、地域大を受講しました。現在は、西横浜の「ガッツ・びーと西」という障がい者支援施設で、余った食材や賞味期限の近い食材を企業などから寄付してもらい、生活に困窮している方にお配りするフードパントリーの活動を毎月行っています。

活動を通して、障がい者との接点が増えたので、ボッチャを行ったり、自閉症や発達障害の方のABA（応用行動分析）のお手伝いもしています。住んでいる地域では自治会の役員をしているので、自治会と障がい者の接点が作れないかと考えています。

**宮本（10期生）：**私は20年以上前から毎朝の臨港パークでのラジオ体操に参加して、そこで知り合った仲間と一緒に、ヘルスメイトや詩吟、ウクレレ、篭編みなどの活動をしています。

おいしい野菜を食べるのが好きなので、八百屋をつくるというプランを立てて卒業しました。地域大を通して、八百屋の方と接して、料理も好きになりました。

宮本晃三さん

## 地域大への参加を通した自身の心や人とのつながりの変化について
## ～心地よい仲間と心で動く活動～

**山本：**地域大に参加した頃は、自分にできることがよく分かっていませんでした。地域大に参加する中で、普段何気なく持ち歩いていた薬膳茶に興味を持つ同期生が複数いたこともあり、テーマを薬膳茶にしました。

今はSNSやネットを通してグローバルに不特定多数の人に情報発信をすることも可能ですが、地域の中で身近に丁寧な活動をすることが自分に合っており、また、そうしたいと思いました。

## 西区地域づくり大学校

横浜ではこの数十年、市民の力で「住んでいてよかったと思える地域づくり」が進んできました。そのスピリットや実践知を次世代に引き継ごうと、2010年に「よこはま地域づくり大学校」が横浜市域で開校しました。その後2012年から各区で開催されるようになり、西区では今年で12年目となります。

「住んでいるまちを知る、もっと好きになる。自分で何ができるか考える。仲間・地域とつながる。まずは動いてみる。」講座では、このコンセプトのもと、講義、活動見学、ワークショップを通して学びを深めていきます。これまでに様々な活動が生まれ、つながり、広がっています。

修了生数：143名（毎期15名程度募集）

活 動 例：地域のコミュニティカフェ / みちあそび / プレイパーク / 子ども向けアート教室 / こども食堂 / 薬膳茶カフェ / 防災キャンプ講座 / ママたちのための託児付フラワーワークショップ / 生きづらさを抱えた家族のためのフリートークの会ほか

**橘高**：第9期の地域大はコロナ禍でオンラインが中心の開催でしたが、個性が強いメンバーが集まったこともあり、受講中に同期生のグループLINEが盛り上がり、そこから複数のプロジェクトを立ち上げて、実際に活動を始めました。

**鹿島**：地域大を通して、様々な価値観に触れられたこと、同じ場所に住む人たちとつながりを感じられたことが、会社とは異なる経験でした。

同期生からの果物のお裾分けを、みんなでもらいに行き、盛り上がったことが印象深く、都会では得難い近所づきあいに心地よさを感じました。

仕事では成果を出すことにこだわりすぎて、「頭で考える」生き方をしていましたが、今は、地域大で様々な人と触れ合うことで、「心で動く」生き方を学び、仕事も心で取り組むようになりました。

**樋野**：私も同期のグループLINEに励まされました。地域大への参加を通して「心のわらしべ長者」になったと感じています。

私は世の中に多くある残業を、能力があるのに働く場がない、引きこもりの方の就労支援に繋げられないかと考えました。すると、にしとも広場から、地域大の卒業生で、引きこもりの親の会を運営している方を紹介してもらえ、実際に引きこもりの方とのつながりができました。

最初はその方たちとレシートの入力のボランティアをしていましたが、最近は図書の文字入力など、まとまった作業を仕事として受けるようになり、話が次々と進んでいくのを実感しました。

樋野大禄さん

**宮本**：私は地域大に参加して、真面目でやる気のある若者の面白い発想と接したことが、とても楽しかったです。共通の趣味を通して、地域大の先輩ともつながりが生まれました。

**石黒**：私も地域大を通した「つながりの広がり」が今の活動に活きています。フードパントリーの方との出会いもそうですが、知人を介して先輩の橘高さんとの活動のつながりもできました。

地域活動について研究をしている愛知大学の学生と話をしたり、地域大に参加することで、これまでにないつながりが広がったことを実感しています。

**加世田**：にしとも広場にとっても、地域大卒業生のみなさんの存在は大きく、にしとも広場が相談を受けたときには、みなさんの顔を思い浮かべます。気心の知れた仲間として相談できるので、新たな展開にもつながり、ありがたく思っています。

橘高禎利さん

## 地域との関係、地域での活動について
## ～地域への愛着と人でつながるコミュニティ～

**橘高**：地域の活動では、役職ごとに分担が決まっていて、複雑化した地域課題の解決が難しくなっています。大学で社会学を学んだ若い世代などに参加してもらうなどして、新しい知見で地域をアップデートして欲しいです。

**石黒**：地域で活動している方も課題は認識しているものの、何をすればいいのか分からない状態だと思います。まずは、地域の人材とできることを棚卸して、地域の中でできない部分は外部のリソースを頼って欲しいと考えています。地域大卒業生は様々なリソースを持っているので、きっと地域でも役に立てると思います。

**樋野**：地域で活動している小さなNPOとしては、住民の方々と連携して、一緒に地域をよりよいものにしていきたいです。

**鹿島**：私は地域の課題やニーズが具体的に見えていないので、地域の中で自分が何をできるのかも分からず、つながる先がみえていないです。

**松本**：地域が外部の人と繋がる「つながりしろ」が求められているのかも知れないですね。

**宮本**：臨港パークでのラジオ体操は、誰が呼びかけた訳でもないのに、多くの人が集まって一緒に朝の体操をしています。何にも縛られない自由なコミュニティなので、とても居心地がよいです。

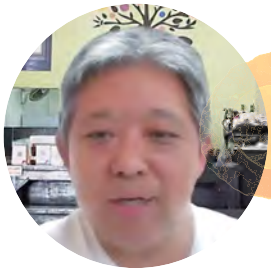
**鹿島**：地域への「愛着」が、地域での活動に繋がっていくのだと思います。住んでいる地域に愛着を持っている人を増やしていくことが、地域に根ざした活動に繋がっていくのではないでしょうか。

**松本**：コロナ禍以降、自身の得意分野を生かして、地域活動に参加する方が増えていると感じます。こうした人たちが、無理のない範囲で地域で一緒に活動できる「ゆるいつながり」が、徐々に広がっていけばよいと思っています。

**鹿島**：企業では、仕事に人をつけるかたちで社員を募るジョブ型雇用が進んでいます。受け入れる側の企業にも、外から来る優秀な人材がスキルを発揮して働ける環境をつくることが求められていて、社会のニーズの変化に合わせて組織も変わっていきます。地域の活動にも同じことが言えるのかも知れません。

組織の中で人が流動することで、新たな人の繋がりも生まれます。住む場所だけでなく、人でつながる地域コミュニティがあってもいいのではないかと考えています。

鹿島崇宏さん



石黒芳樹さん

## 座談会を振り返って
## ～若い世代が地域に参加するしくみ～

**山本**：薬膳茶やヨガには、高齢の方が多く興味を持つイメージがありますが、次の世代が気軽に地域活動に参加するきっかけになるような、学生や親子向けの企画もしてみたいと思います。

**橘高**：地域が、外部の人の力を受け入れるようになれば、地域に関わる人は増えていくと思います。コロナ禍を経て、地域の活動を再開するのを機に、活動のかたちをシフトできないかと考えています。

**鹿島**：若い世代は人とのつながりを求めないと言われますが、SNSなど別の形でつながっています。人はつながりを求める生き物なので、地域にも若い世代がつながる場があればと考えています。

**樋野**：私は自分に刺激が欲しい、自身をアップデートしたいという想いで地域大に参加しました。若い世代でも、同じ思いを持っている人は多くいると思います。若い人が実践できる場があれば、地域が活性化するのではないかと感じました。

**宮本**：地域大はとてもよい企画で、参加して様々な方と知り合い、つながりが広がりました。これからも範囲を広げて活動をしていきたいです。

**石黒**：愛知大学の学生による研究レポートを見て、若い人たちのエネルギーを感じました。ホームページの制作など、地域で若い人が活躍できる場があるとよいと考えています。

**松本**：にしとも広場の新たな役割として、地域に外部や若い人たちが参加するしくみが求められていると感じました。

# 登録団体インタビュー「にしく名・達の会」

にしとも広場には、地域課題の解決や趣味・特技を活かした活動をしている、市民活動団体等が多く登録しています。このページでは、登録団体の方たちにインタビューをして、その活動を紹介します。

「にしく名・達の会」は発起人の有澤さんから、菓子田さん、吉田さん、髙野さん、魚地さん、服部さん、金子さんと代表が引き継がれていて、今回は、その中から4人の方にお話を伺いました。

## にしく名・達の会立ち上げの経緯

**有澤 博さん**

私は1995年に、音楽ボランティアで「西区街の名人・達人（以下、街の名人・達人）」に登録しましたが、当時は、自分たちのスキルを発表する場がほとんどありませんでした。そこで西区役所と共催で「西区街の名人・達人まつり（以下、名達まつり）」を2003年から開催し、毎回の来場者は千人を超えていました。しかし、第8回を最後に、名達まつりの予算が付かなくなってしまい、「街の名人・達人」の有志で2010年8月に「にしく名・達の会（以下、名・達の会）」を立ち上げ、以降、名・達の会の主催で名達まつりを継続開催しています。

## 一緒に取り組むことで生まれる力

**吉田 峯子さん**

私は水墨画の講師をしています。講師は個人としての活動ですが、名・達の会では仲間と一緒に活動することができます。名達まつりでは、みんなで「名達豊年太鼓」と「チンドン隊」を行います。みな専門外の分野ですが、チンドン隊を見て懐かしむ方や、興味を持って駆け寄る小さな子どもたちと一緒に楽しむことで、個々の活動とは違う力が生まれることを実感しています。また、名・達の会では、毎月の定例会で互いの活動を共有し、「名人・達人」の名に恥じないよう自分のスキルを高めていくことに切磋琢磨しています。

## 喜んでもらえることが原動力

**金子 敏郎さん**

私はカントリーミュージックを演奏しますが、名達まつりの舞台を見て自分も参加したいと思い、名・達の会に入会しました。最近は、地域からの出演依頼も増え、年配の方たちが懐かしさに喜んでくれることに、私自身が励まされています。名・達の会の会員は、地域のみなさんに喜んでもらえることを原動力に活動しています。

## 発表の場から地域とつながる活動へ

**髙野 圭子さん**

名達まつりは、昨年、第20回を迎えることができました。来場した方々と接することを通して、私たちも地域の方にもっと元気になって欲しいという気持ちが強くなり、名達まつりだけではなく、商店街のイベントや町内会の夏祭りなどにも積極的に参加するようになりました。今では地域とのつながりが、名・達の会の大きな役割の一つになっています。

名達豊年太鼓

チンドン隊

作品展示

# 新規登録「西区街の名人・達人」のご紹介

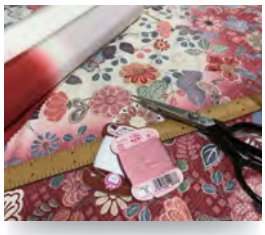
（2022 年 8 月～2023 年 6 月登録）

地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」とは、仕事や趣味で培った、自分の経験・知識・技術を活かして、地域のイベントや講座などで活動する、ボランティア人材登録制度です。コーディネートはにしとも広場にご相談ください。このページでは、「西区街の名人・達人」に新規登録いただいたみなさんをご紹介します。

## 西区街の名人・達人

横浜やんけ将棋道場
渡辺 健弥 さん
《将棋》

ブルーベル
（BlueBelles）
《音楽とおはなし》



吉井 啓子 さん
《和裁☆手ぬい》

Keiko Koguma
《テディベアづくり》

More English Club
モア・イングリッシュクラブ
《こども英会話》

加藤 友美 さん
《工作・アート》

立木 左絵 さん
（横浜オカリナカンタービレ）
《オカリナ演奏》

ツリーファミリー
《ピアノ・オカリナ演奏・指導》

フルーヴ気功
《気功》

Cal
《読み聞かせ》

漆崎 信二 さん
《歌・楽器演奏・指導》

加藤 明彦 さん
《お金の話・特殊詐欺》

加藤 明彦 さん
《鎌倉・明治時代の横浜と人物》

Tree house
松井 友美 さん
《アロマテラピー》

Tree house
松井 友美 さん
《メディカルハーブ》

## 情報紙連動企画のお知らせ

### 第12期西区地域づくり大学校 募集受付中

**応募期間** 2023年9月11日(月)～10月20日(金)

**対　　象** 地域とつながって活動を始めたい方、地域で仲間をつくりたい方、自分ができることを見つけたい方。

**定　　員** 15名（応募者多数の場合抽選となります。全日程参加できる方が対象となります。）

**受 講 料** 無料

**応募方法** 二次元コード、郵送、FAX、メール、持参

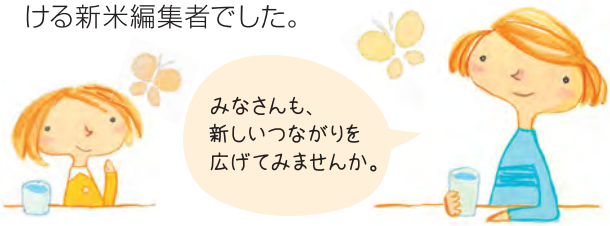
申込フォームはこちら

## 編集後記

地域大卒業生の座談会と、にしく名・達の会のインタビューを通して、地域活動の原動力は、仕事のように誰かに指示されるのではなく、自分の心で動くことなのだと実感し、タイトルのワードに選びました。

みなさんが醸し出す柔らかな空気の裏に、自律した「個」があるからこそ、緩やかなつながりに心地よさを感じ、人が人を呼んで活動の輪が広がっていく、地域の中で顔の見える関係が生まれるきっかけを垣間見ることができました。

地域の活動を支援するにしとも広場の職員として、どのような地域のつながりを目指していくのか、自分に何ができるのかを、自身の心に問いかける新米編集者でした。




**次号にしとも広場22号は、2024年3月発行予定です。お楽しみに！**

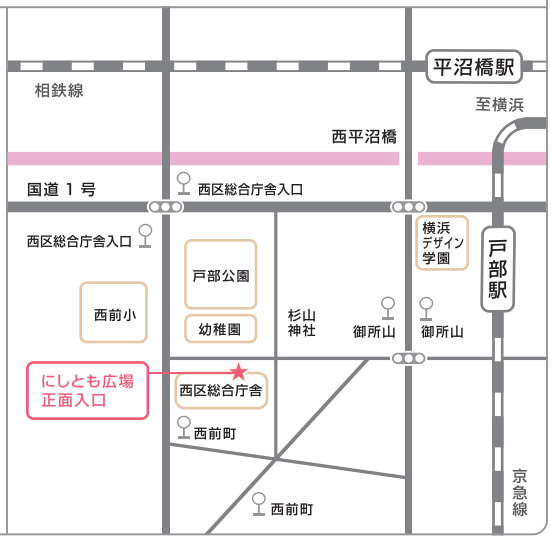
### “にしとも広場”ってどんなところ？

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。
「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といった
ご相談をお待ちしています。

にしとも広場ホームページ


にしく市民活動支援センター
**にしとも広場**

管理運営：認定ＮＰＯ法人市民セクターよこはま
TEL/FAX：045-620-6624
Eメール　ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp
ホームページ　https://nishitomo-city-yokohama.jp/
住　所　横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階
開館時間　9:00～17:00
休館日：毎週水曜日・年末年始（12/29～1/3）
アクセス　京浜急行「戸部駅」徒歩８分
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分



情報紙「にしとも広場」は、
西区内の郵便局、地区センターやコミュニティハウスなどの公共施設に配架しています。

発　行：にしく市民活動支援センター“にしとも広場”　発行日：2023年10月